2 確かな学力の育成

複雑で変化の激しい現代社会に子どもたちが主体的に関わり、よりよい社会を創造していくためには、一人ひとりが基礎的・基本的な知識・技能を習得し、自ら課題を見付け、他者との協働的な学習を通して主体的によりよく問題を解決する力を身に付けることが大切です。

そのためには、子ども一人ひとりの学びを大切にし、教師の働きかけを工夫することやＩＣＴを活用して自ら学びを進める力を育成することなどを通して、「わかった」「できた」を実感でき、「もっと学びたい」につながる授業を構築することが重要です。また、多様な考え方を受け入れ、様々な人々と協働して社会を創ろうとする態度をはぐくむためには、各教科等において様々な文化や価値観、生き方にふれ、思いや考えを伝え合う機会の充実を図ることが大切です。

２－１ 学習指導の充実　　２－２ ＩＣＴを活用した教育の推進
２－３ グローバル化に対応した教育の推進

２－１ 学習指導の充実

目指す授業のイメージ

「わかった」「できた」を実感でき、「もっと学びたい」につながる授業

子どもたちが、安心して自分の思いや考えを表現したり、互いのよさを認め合いながら学びをつくり上げたりすることができるよう、生徒指導の視点を生かした授業を構築することが大切です。

その上で、子どもが課題解決の喜びを実感し、新たな課題を見いだしたり、進んで学習方法を工夫するなど、自ら学び続けようとする意欲を高めることができるよう、子ども一人ひとりの思いや願い、学ぶ姿に応じた授業改善を図ることが重要です。

■確かな学びの基盤として　～生徒指導の視点を生かした授業～

自己決定の場を設定する

○興味や関心を持ち、自ら学びに向かうことができるよう、資料や教材提示の仕方を工夫する。
○課題解決のための思考などの場面において、自分の考えを持つことができるよう、視点を示し、発問を工夫する。
○課題に対して学習方法や表現方法を選択する場面を設定したり、個で考える時間を十分に保障したりする。
○振り返りの視点を具体的に示すことで、学びの成果を実感したり、新たな課題に気付いたりできるようにする。

自己存在感を持たせる

○前時の振り返りを活用するなど、一人ひとりの学習の成果が本時の学習に結び付いていることを実感できるようにする。
○子どものつぶやきや反応を大切にする。
○個々の考えのよさについて具体的に取り上げ、価値付ける。
○一人ひとりの学習状況を見取り、つまずきに対して適切な支援を行う。
○子ども一人ひとりの成長を認めたり、取組の姿勢を称揚したりする。

共感的な人間関係を育成する

○子どもの疑問を取り上げるなど、共に課題解決に取り組む必要感が生まれるよう学習課題を設定する。
○友達の意見を最後まで聞くなど、学習の約束を大切にし、誰もが自信を持って意見を述べることができるようにする。
○互いの考えを生かして、よりよい考えを導き出すなど、集団で学ぶことのよさを実感できるようにする。
○子どもの振り返りを意図的に取り上げ価値付けることで、互いのよさに気付いたり、認め合ったりすることができるようにする。

安全・安心な学びの環境をつくる

○話したり聞いたりするときの言葉づかいや態度に配慮するなど、互いの考え方を尊重し、認め合う環境づくりに努め、子ども一人ひとりが安心して学習することができるようにする。

■「わかった」「できた」を実感でき、「もっと学びたい」につながる授業へのアプローチ

子どもたちが課題を解決したときの達成感や学んだことの意義を実感でき、主体的に学び続ける意欲を高めていくことができるよう、一人ひとりの学びの過程や学習状況を丁寧に見取り、学習の進め方や表現方法を選択する場を設定したり、学び合いの成果を実感できるような振り返りの場面を取り入れたりするなど、教師の働きかけを工夫することが重要です。

＜一人ひとりの学びに応じた教師の働きかけの例＞

- 単元や題材の導入を工夫し、子どもの興味や関心を高める。
- 考えてみたいことや挑戦してみたいことなどを取り上げ、ねらいに迫ることができるめあてや学習課題を設定する。
- 日常生活や既習内容との比較、関連付けをしながら、解決の見通しを持つ場を設定する。
- 課題解決に向けて、図書資料やＩＣＴ等を活用して個で考えたり、友達と意見交流したりするなど、学習の進め方を選択できるようにする。
- 子どもの学習状況に応じて、ペアで確認する場や、個で学び直す場を設定する。
- 子どもの発言や、グループの発表などに対し、考えの根拠を問い返すなど、思考を深める発問を工夫する。

- なぜだろう、不思議だな
- おもしろそう、早くやってみたい
- どうやったら解決できるかな
- 前に学習したことが使えそうだな
- じっくりと考えてみたいな
- 友達の考えを聞いてみたいな

- 学習過程における子どものつぶやきや反応などを生かし、個で学ぶ場面や協働で学ぶ場面を適切に設定する。
- 多様な考えにふれ、一人ひとりが考えを広げたり、深めたりすることができるよう学習形態を工夫する。
- ＩＣＴを活用してグループの考えを整理したり、ホワイトボードに考えをまとめたりするなど、表現方法や発表の仕方を選択する機会を設定する。

わかった

できた

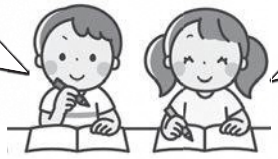
もっと学びたい

- できるようになったか確かめたいな
- 次はもっと難しいことに挑戦してみよう

- 友達の考えを聞いて気付いたことがあるから、もう一度試してみよう
- 新しい方法を考えたから、みんなに話したいな

- 学習内容の定着を図る場面では、子どもが自分に必要な内容を考え、選択できる場を設定する。
- 学習の過程を振り返り、互いの考えのよさを認め合う場面を設定するとともに、子どもの変容を価値付ける言葉がけをする。
- 全体で共有した成果が一人ひとりの理解や学習の深まりと結び付くよう、まとめや振り返りの場面を工夫する。

- どうすればもっとうまくできるかな
- 他の方法も考えてみたいな



- 分かってうれしい、次の時間も楽しみだな
- 友達のやり方が分かりやすかったから使ってみたいな

２－２　ＩＣＴを活用した教育の推進

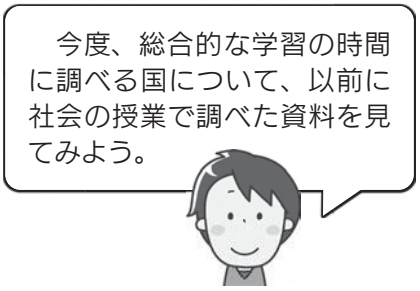
子どもたちの学びをより豊かで広がりや深まりのあるものにするためには、課題解決の方法を自分で決めたり、学んだことから新たな課題を発見したりするなどして、自ら学びを進めることができるよう、ＩＣＴを積極的に活用し、適切に情報を選択する力や、得られた情報と自分の考えとを組み合わせて新しいものを生み出す力など、情報活用能力を身に付けさせることが大切です。

また、子どもがタブレット端末等を日常的に活用できるよう、全教職員でＩＣＴ機器の効果的な活用のあり方について共通理解を図ったり、スキルの向上に努めたりすることが必要です。

■各教科等の学びを深めるために

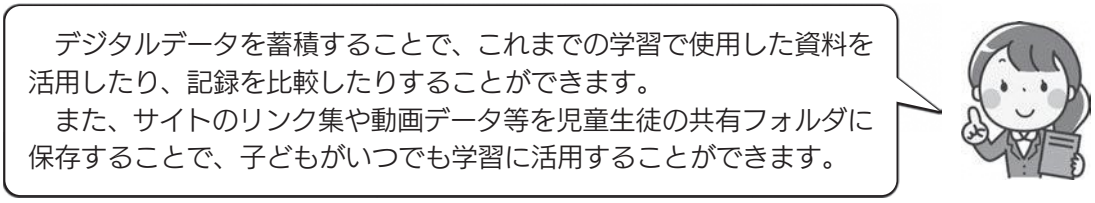
＜学習場面に応じた取組例＞

○蓄積したデジタルデータを活用し、考える。

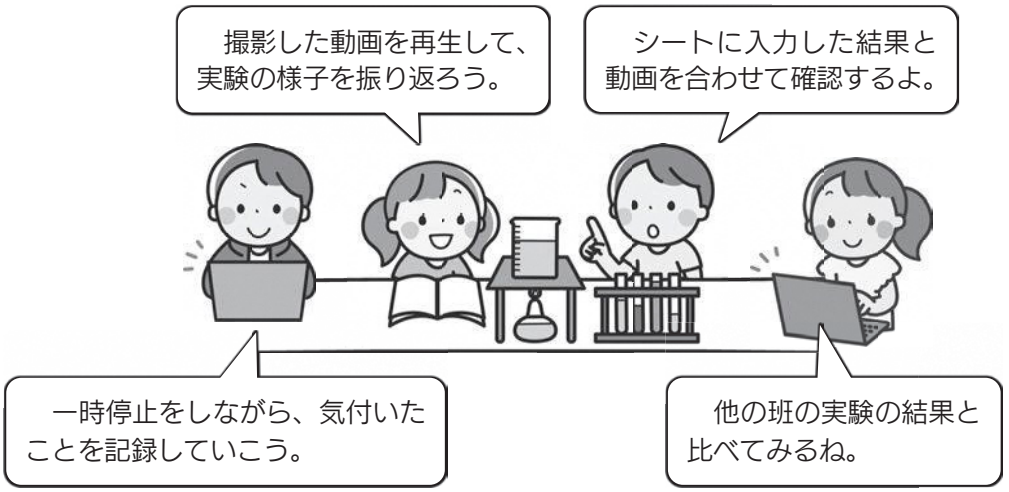


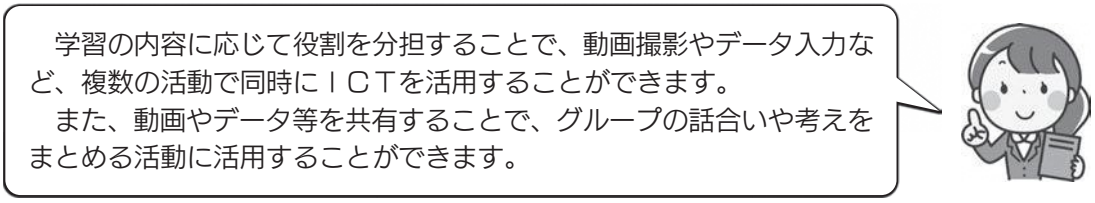
［フォルダの内容の例］

- インターネット等を活用して集めたデータ
- 自分が保存した他教科の学習の資料
- 教員が授業のために準備した資料
- 前学年の児童生徒が作成した同じ単元の学習についての資料
- 内容に関係するＨＰのリンク集



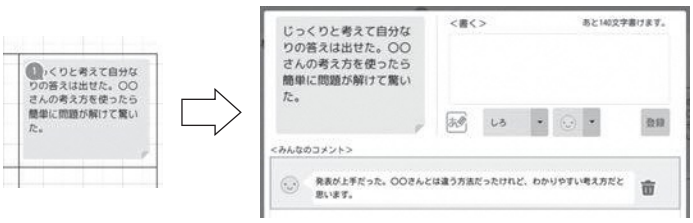
○撮影した動画や記録したデータを共有し、活用する。



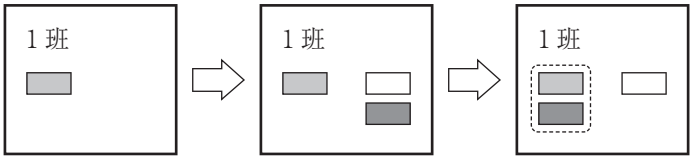


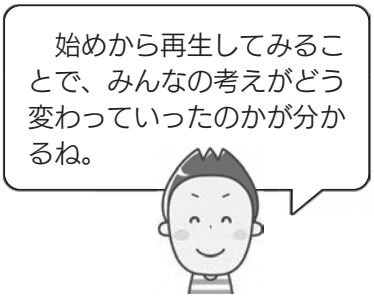
○意見の交流や相互評価を行ったり、学習の過程を振り返ったりする。

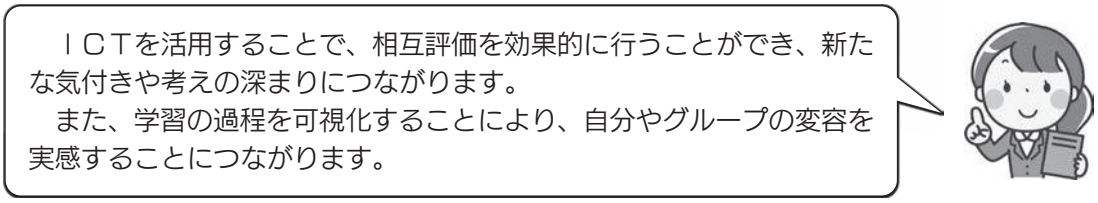
• 振り返りに対して互いにコメントを書く。



• 付せん等を貼ったり動かしたりした順に再生表示する。







■ＩＣＴの日常的な活用のために

□学びを支える力をはぐくむ取組

- 小学校低学年からキーボードによる文字入力やインターネットでの検索方法を学ぶ時間を設定するなど、子どもが基礎的な技能を身に付けられるようにする。
- 情報発信や個人情報の取扱い方について学ぶ機会の充実を図るなど、子どもが自ら判断し安全にＩＣＴを活用することができるようにする。
- ＡＩ型ドリルやタイピング練習など、家庭でのタブレット端末の活用例を示すなどして、家庭での積極的な活用を促す。
- 小・中学校が連携してスキル体系表を作成し、必要に応じて見直しを行うなど、子どもが小中９年間で系統的にスキルを身に付けることができるようにする。

□教員のＩＣＴ活用を推進する取組

- 機器の操作方法や効果的な活用方法等について情報共有するなどし、ＩＣＴ活用のスキル向上に努める。
- ＩＣＴの活用記録を蓄積し、効果的な活用のあり方について校内で共有する。
- ＩＣＴを円滑に活用することができるよう、各種設定やトラブルへの対応について、ＩＣＴ支援員と連携して対応する。

２－３　グローバル化に対応した教育の推進

多様な考え方を受け入れ、他者と協働してよりよい社会を創造しようとする態度をはぐくむためには、自国の伝統や文化についての理解を深め、様々な文化や価値観にふれる機会の充実を図るとともに、広い視野で物事をとらえ、課題を解決する力をはぐくむことが大切です。

また、世界の人々と思いを伝え合うことができるよう、コミュニケーション能力を高める英語教育の充実を図ることが重要です。

■様々な文化や価値観、生き方にふれる機会の充実

□地域の人々や専門家の協力を得ながら、日本やふるさとの伝統、文化等にふれ、よさを見つめ直す学習活動の充実を図る。

□様々な国や地域の出身の方たちなど異なる文化的背景を持つ人々の考え方や生き方にふれ、多様な価値観を尊重するとともに他者と協働しようとする態度をはぐくむ。

□ＩＣＴを活用し、様々な伝統や文化について情報を収集したり、オンラインで他の地域や他国の人々と交流したりする機会を設ける。

ＡＬＴとの交流を通して様々な国の文化や習慣にふれる。
【イングリッシュスクール】

■広い視野で物事をとらえ、課題を解決する力をはぐくむ学習活動の充実

□多面的・多角的な視点で物事をとらえ、各教科等で学んだ知識を関連付けて考えたり、新しいものの見方や考え方に気付いたりすることができる機会を設定する。

□様々な考え方や価値観を持つ人々と協働して課題を解決する場面を設定し、自分と異なる意見を尊重しながら話し合ったり、新たな考えを生み出したりすることができる学習活動の充実を図る。

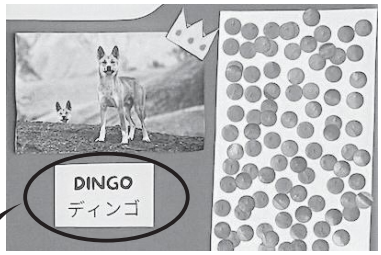
□世界が直面している現代的な諸課題を身近な生活や社会と結び付けて考えることを通して、課題意識を持ち、解決に向けてできることに主体的に取り組もうとする態度を身に付けることができるようにする。

■コミュニケーション能力を高める英語教育の充実

□外国語活動、外国語（英語）科の授業における言語活動を通して、自分の思いが相手に伝わる喜びや、相手の気持ちや考えを理解する喜びを感じられるよう、他者とのやり取りを大切にした授業を構築する。（→Ｐ４９外国語（英語）科、Ｐ５３小学校外国語（英語）活動参照）

□実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能等を身に付けることができるよう、ＡＬＴと共に活動する場面を増やすとともに、校内にイングリッシュコーナーを設置するなど、英語にふれる機会の充実を図る。

□小学校外国語活動・外国語科と中学校外国語科の学びの系統性を踏まえた指導の充実を図る。



①興味のある動物に子どもが投票する。

②人気があった動物をポスターで紹介する。
【子ども参加型のイングリッシュコーナー】